

日本での交換留学

サピエンツァ・ローマ大学
リパローティ・シモーナ

出身大学にいただいた奨学金のおかげで私もお茶の水女子大学に留学ができるようになりました。日本を楽しみながら過ごして、あっという間に一年間も経ってしまいました。1年間の留学について考えるといい思い出ばかりで、微笑まずにはいられません。ただし、手続き・日本語で自分の気持ちを伝えること・初めての一人暮らしで勉強やレジャータイムのバランスをとることで困った時がなかったわけではありません。しかし、困ったときにも対処し、日常生活でチャレンジできるようになり満足するにしたがって疲労がなくなってきました。



四季の流れとともに、日本の風景の素晴らしい変化も楽しみながら、した旅、参加したイベント、知り合った人が増えてきました。桜が咲いたり、根津神社につつじが花開いたりしているところに、私が授業を始めたり狂言研究会に参加したり一步一步東京や東京の周りを歩いたりしていました。それに加えて、留学生向けの文化教室のおかげで書道、茶道、着物、浴衣、生花も体験できて、とても勉強になって嬉しかったです。前学期の間留学生とお茶大生と友達になったので、一緒に雨でも花で色がいっぱい付ける梅雨が過ごせるのが幸いでした。

友だちとあじさいの満開で美しい鎌倉の日帰り旅行して、飛行機に乗って北海道のラベンダー畑を散歩して、どれぐらい嬉しいことか言えません。期末試験が終わってから暑すぎても、日本を歩き回って、違う大学に留学している友達に会いに行きました。日本滞在、特に夏休みをきっかけにして、どんな個通機関にも乗ったりどんな宿泊でも泊まったりして、関東に限らず、九州から北海道まで日本列島を踏破できました。伝統的な町と有名な観光スポットだけではなく、田舎や山や国立公園に行き、そこで祭ったりしてとてもいい時間を過ごしました。それにしても、夏休みといえば旅行ばかりしていたということではありません。9月上旬に狂言研究会で初めて舞台に出て、結局努力して練習してきた小舞が発表できました。紅葉が近づいたら、経験や新しい出会いの多い新学期も始まりました。お茶大には11月と言えば、徴音祭という意味なので、狂言研究会のメンバー全員で接客的に文化祭の準備に参加したりしていろいろお稽古をやってきました。今度は小舞ではなくて、「痺」という狂言ができるようになって上演して感動しました。銀杏の葉っぱがおちてから冬になって、高山で積もった雪を見ましたし、少しだ



けでも東京に雪が降るのを見ました。音羽館のシェアルームで、友達と映画を見たり、ゲームをしたり、ダンスしたり食べたりして暖かくて楽しい年末年始も過ごせました。一年間の間卒論のために研究して日本語能力も高めるということに加えて目標を達成して個人的に成長したと思います。

最後に、小谷先生、毎月の振り返りシートをご確認してくださって心から感謝しております。外国語教育センターの方イタリア語カフェを手伝ったり、ワークショップにも参加させてくださったりしてありがとうございます。優しく面白いお二人のチューターさんを今まで手伝ってくれてありがとうございます。